

げんきよく
よみましょう。



文豪・夏目漱石の小説「吾輩は猫である」の冒頭部分です。教師の珍野苦沙弥（ちんのくしゃみ）の家で飼われているオス猫「吾輩」の視点から、人間模様が風刺的に描かれています。吾輩とは、「私」という意味。男性が使う少し偉そうな言い方で、冒頭から猫がそう言うのもおかしいですね。

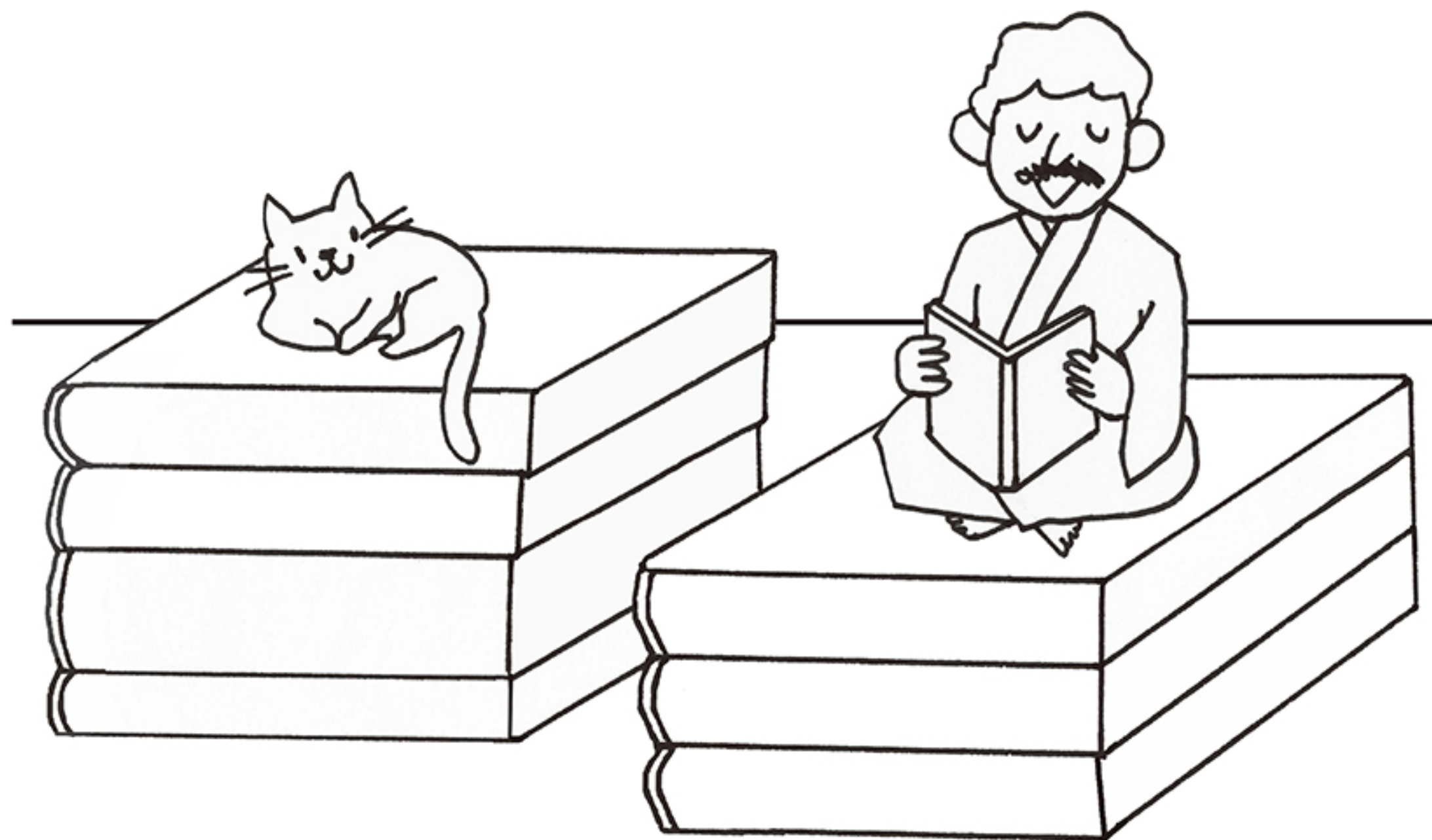
わがはいは

ねこである

なまえは

まだ
ない





よんだ
ぶんを
おもいだしながら、
すきな
いろで
ぬりましょう。

「よんだら はろう」 じょうずに よめたら、よんだ ひにちを かいて、がんばりシールを はりましょう。

1

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

2

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

3

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

ゆつくりと
よみましよう。



江戸時代の俳人・松尾芭蕉（ばしやう）の俳句。紀行文「おくのほそ道」によれば、芭蕉が、山形県の険しい岩山の上にある山寺・立石寺（りっしやくじ）を訪ねたときに詠んだ句だそう。最初に詠んだのは「山寺や 石にしみつく 蟬の聲（こえ）」。そこから推敲（すいこう）を重ねて完成したが、この名句です。

しずか
いかに
せみの
こえ





よんだら
ちょうせん

せみが ないて います。
すきな ところに
せみの シールを はりましょう。

〔よんだら はろう〕 じょうずに よめたら、よんだ ひにちを かいて、がんばりシールを はりましょう。

1

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

2

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

3

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

はつきりと
よみましよう。



2羽のうさぎを追いかけてとうとうすると、結局1羽もつかまえられない。つまり、2つの物事を同時に行おうと欲を出すと、かえってどちらもできなくなるという意味です。「テレビを見ながら勉強なんて、二兎を追う者は一兎をも得ずで、ダメですよ」のように使います。

よくばると
かえって

なにも えられない

にとを おうものは

いっとなをも えず





2わの うさぎを おいかけで、
↓から ↓まで、せんで たどりましょう。
どちらか 1わの ところへ いけます。

「よんだら はろう」 じょうずに よめたら、よんだ ひにちを かいて、がんばりシールを はりましょう。

1

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

2

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール

3

かいめ

がつ

にち

がんばり
シール